



独立行政法人国立病院機構  
**沖 縄 病 院**



〒901-2214  
 沖縄県宜野湾市我如古3丁目20番14号  
 TEL: 098(898)2121  
 FAX: 098(898)6433 (地域連携室直通)

2019年1月 NO.98 発行地域連携室



亥年に思う



国立病院機構沖縄病院  
院長 川畑 勉

みいそーぐわち・でーびる、くとしん、ゆたさるぐとうにげーさびら(あけましておめでとうございます。今年もどうぞよろしくお願いたします)

平素は、沖縄病院の医療に対するご理解とご協力を賜り、心より感謝申し上げます。平成最後の新年のご挨拶を申し上げます。本年も昨年同様、ご指導・ご鞭撻のほどよろしくお願いたします。

さて、昨年3月から新病棟での運営を開始しています。これを機に『肺がんセンター』を設立しました。近年の手術手技の向上、分子標的治療薬、免疫チェック阻害剤の登場で肺がんに対する治療成績の向上は目覚ましいものがあります。まさに**革命**が起こりつつあります。当院の外科治療でいえば、積極的縮小手術による治療成績は肺葉切除と同等以上の成績です。局所進行がんに対しても気管支形成・肺動脈形成を駆使して積極的に肺機能温存に努めていますが、その治療成績もまた向上しています。呼吸器外科・内科・放射線科・病理診断科が一体となり、これまで以上に病診連携、病病連携を密にし、沖縄県の肺がん治療成績を

世界のトップに引き上げるべく、日々研鑽を積んでまいります。神経・難病医療についても然りです。沖縄県の拠点病院としての役割を果たすべく、できる限りの努力をいたします。緩和医療科についても、日頃から看護の原点は緩和医療科にあると思っています。多くの施設と連携し、患者さんとご家族が求める医療・看護の提供を常に心がけています。今月の当院の院長室だよりは『以和為貴(和を以て貴しとなす)』です。キーワードは『チームワーク』です。全職種が一体となって、患者さんの立場を尊重した良質の医療を提供いたします。『亥』には人材育成、財務基盤を固め、組織内部の充実を図る意味があります。まさに当院の今年の目標にかかげ、猪突猛進したいと思います。本年もどうぞよろしくお願いたします。



**基本理念**  
 患者さまの立場を尊重し  
 高度で良質の医療を提供します

**運営方針**

1. 政策医療を中心に、質の高い適切な医療サービスの提供
2. 患者様の視点に立った、あたたかく思いやりのある接遇
3. 健全な経営基盤の確立
4. 安心して療養に専念できる快適な環境
5. 臨床研究の活性化と臨床教育・研修機能の充実

**GINOWAN CITY FM 81.8MHz**  
 ぎのわんシティFM

毎週月曜日 9時30分から当院職員による病気に関する様々な情報をラジオ放送しております。当院HPにも放送内容を掲載しておりますのでご覧ください。



沖縄病院と連携していただいている医療機関をご紹介します

## ゆずりは訪問診療所

### 対応地域

那覇市・浦添市

その他の地域も、お気軽にご相談ください。

### 受付時間

定期訪問日 / 月・火・木・金

受付時間 / 月～金 [午前] 8:30～12:30

[午後] 13:30～17:30

◆所在地 / 那覇市首里石嶺町 1-123-1

◆電話番号 / 098-885-7001



院長 屋宜亮兵先生

「ゆずり葉が次々と新芽へ継いでいくように、『人の気持ちを紡ぎ、地域に根差す』訪問診療所でありたい」との思いを込めて、当院「ゆずりは訪問診療所」は2016年12月に開業いたしました。開業以来、通院が困難な方や介護が必要な方、退院後のケアが必要な方に定期訪問し計画的な医療サービスを提供し、微力ながら地域医療に傾注して参りました。今日では年間の看取り100件・緊急往診250件を超える実績を積み重ね、関係機関のお力添えを頂きながら、県内有数の在宅診療所として確立することができました。そして今般、医療と福祉が一体となって在宅療養を支援できるよう「ゆずりは訪問看護ステーション」「まつりか訪問介護ステーション」「ひまわり居宅介護支援センター」を開業いたしました。

沖縄病院とは難病患者等の在宅移行について数多く連携させて頂いておりますが、在宅移行支援を行うに当たり、専門病院と在宅診療所の病診連携は必要不可欠だと考えております。当院では、日々の身体症状等を評価する定期診療に加え、緊急的な症状の変化に対応する緊急往診を行う等、24時間365日診療体制を構築していますが、難病患者は病態に応じて専門病院との連携が必要となります。そのため、当院では病診間を含めた多職種カンファレンスを積極的に行っており、病院と診療所が対面し、互いを知り、共に患者を診ることで、結果として切れ目なくスムーズな在宅移行を促進できると考えております。

今後もこうした連携を大切にし、円滑な在宅移行を含めた専門病院との連携体制を構築し、切れ目のない在宅移行を推進する一助となれば幸いです。



昨年の12月5日に緩和ケアチームの主催で、クリスマスコンサートが開催されました。

今年は、新病棟に引っ越しして最初のクリスマスコンサートということで、開催場所も外来ロビーから南病棟1階にあるリハビリ室で行いました。

クリスマスコンサートと題してありますが、かぎやで風で幕開けし、ギターや三線の演奏、栄養士の隠し芸、カチャーシーで閉め。と沖縄色満載の内容でしたが100名近くの患者様とご家族が参加され、スタッフ手作りの余興に「一生懸命やってくれている姿が良かった。知っている曲を演奏してくれてみんなで一緒に歌えて良かった」と笑顔が見られました。その中でも、「とても良かった。かわいい。元気をもらった」と口をそろえて喜んでいただけたのは、あゆみ保育園の園児たちからのダンスのプレゼントでした。

今回のクリスマスコンサートでは患者様とご家族の笑顔で、私たちスタッフ一同もエネルギーをもらうことができました。



緩和医療科医長  
久志 一朗

## 栄養管理室の紹介

|| 栄養管理室スタッフ  
管理栄養士 2名  
調理師 3名  
\* 他委託スタッフ



栄養管理室長 赤坂 さつき

栄養管理室の理念に「美味しく安全な食事の提供により、患者さんのQOLの向上に努める」とあります。県内の病院でも郷土料理を提供する施設はありますが、当院では「塩分やカロリーを控える」治療食でも、調味料・調理法を工夫し、月に一度「沖縄おでん～豚足 てびち～」を提供しています。

本年度は、栄養食事指導にも積極的に取り組んでおり「がん治療の副作用による食欲低下」に対する相談も増え、献立・調理担当者が協力してメニュー考案を行っています。また「摂食嚥下機能低下」に対する相談では、ご家族へのミキサー（食形態を調整する器具）の紹介も行っています。栄養食事指導により疾病の治療や予防に努め、患者さんの食生活における行動変容を支援することは、管理栄養士の使命と思いますが、大切なのは「患者さんのニーズにあわせた食事の提供」であり、「患者さんに寄り添う」栄養管理のプロフェッショナルを目指していきたいと思っています。



### ～ 豚足 てびち ～ 食形態調整の工程



## 看護実践講座

がん化学療法看護認定看護師

名城 優喜



12月5日「がん化学療法看護のイロハ」をテーマに看護実践講座を行いました。

院内参加者が多い中、院外からは居宅介護支援センター、がん診療連携拠点病院の参加がありました。参加者から、在宅で支援する際に副作用の発現時期や曝露対策についての質問があり、試行錯誤しながら看護を行っている状況と話を聞きました。抗がん剤治療は、入院から外来へと移行しているため、在宅で看護を行うスタッフも専門的知識が必要になってきます。患者・家族の苦痛や不安の原因を理解して、安心・安全な治療が継続できるように、最適なケアの提供が重要です。抗がん剤の副作用や日常生活での悩みごとがあれば、いつでも気軽にご相談ください。



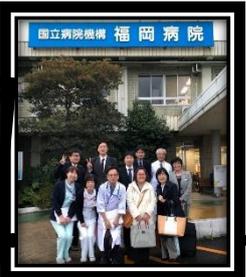
# 病院間における医療安全相互チェックを終えて

医療安全管理室 播磨 利恵



医療安全相互チェックは、国立病院機構の各病院における医療安全対策の現状について病院間で意見交換及び評価を実施し、医療安全対策の標準化を推進するとともに、医療安全の質の向上と均てん化を図ることを目的としています。今年度は当院と福岡病院の2施設間で、11月30日に当院がチェックを受け、12月21日に福岡病院をチェックしてきました。

当院は呼吸器内科病棟や筋ジス病棟、薬剤科、放射線科等の各部門をチェックしていただきました。福岡病院より「病棟全体が整理整頓されており作業しやすい空間が確保されていた。」「医師の時間外処方減少への取り組み、平日時間内での多職種を含めたIC実施の推進ポスターの掲示など病院全体で取り組んでいる印象を受けた」と評価をいただきました。課題としてはマニュアル改訂、医療安全に係る多職種編成チームでのラウンド実施と考えます。福岡病院での良い取り組みも共有しながら、これからも患者さまを中心とした質の高い安全な医療の提供を目指し、医療安全活動に努めていきます。



## 第72回

## 国立病院総合医学会

2018 / NOV



今回、「第72回 国立病院総合医学会」にて、「認定看護師を中心にチームで継続評価・介入し化学放射線治療完遂できた一症例」という演題でポスター発表を行ってきました。今回の発表を通し、患者・家族へ介入していく上で、他分野の認定看護師や多職種との連携が、より効果的な介入が行われることを改めて認識する事ができました。また、認定看護師が中心となり多職種とのマネジメントを行っていく事が、チーム医療をより円滑に行えることも改めて学びになりました。他施設の発表やポスターセッションなどからも、認定看護師としての活動をより積極的にを行い、自己の学びを更に深めながらスタッフへの教育や看護の質向上に努めていきます。

看護師 伊良部 梨知子

日々の看護の中で吸引圧を含め吸引手技の見直しが必要だと感じ、病棟スタッフにアンケートを実施しそれを基に学習会をひらき吸引手技の評価を行った。この一連の流れを看護研究としてポスター発表を行った。発表では研究実施が患者にとってどのようなメリットになったか質問をうけ、病棟スタッフの吸引手技レベルが向上したことによって患者の安全がより守れるようになったと答えた。

看護師 岩本 信治

今後も病棟内での看護の質の向上に自己研鑽しつつ取り組んでいきたい。



演題「与薬準備に集中できる環境調整による効果」をポスター形式で発表を行いました。配薬中にタスキ着用で視覚的効果を図り集中環境を作るという試みで、インシデントの減少ができました。発表後チームの協力体制の変化や、意識付けの工夫などの質問がありました。他院の発表では誤薬予防でも違った視点での取り組みが行われており、参考になる発表がいくつもありました。今回、学会参加を通して大変貴重で有意義な経験が出来たと思います。

看護師 山田 裕貴

第72回国立病院総合医学会においてポスター賞を頂きました。「神経内科における嚥下内視鏡検査の現状と展望について」という演題で院内の嚥下内視鏡検査の取り組みや検査後の対応を報告しました。積極的に検査を行った神経内科医や検査後患者様の「食べる」支援を行った看護師とのチームワークが評価され、今回の受賞に繋がったと思います。今後もチームワークを大切に、患者様の「食べる」支援を継続していきたく思います。

言語聴覚士 城間 啓多

